

博士研究員 研究成果発表会

以下の日程で博士研究員研究成果発表会を開催いたします。博士研究員の「今年度 1 年の研究成果」を発表いたします。教員・学生は問いません。お時間の許す方はふるってご参加ください。

日時: 2 月 27 日(月) 10:00~12:00(1 人発表 20 分、質疑応答 10 分)

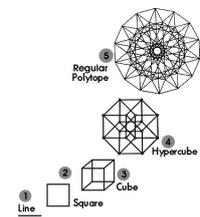
場所: 情報科学研究科棟 3 階 小講義室

プログラム(司会: 中尾光之 教授)

須田庄/情報基礎数理学 I (10:00~10:30)

“複素球面上の組合せ論”

表題にある「複素球面上の組合せ論」について、今年度得られた結果である複素鏡映群の軌道から得られる複素球面上のデザインの構成、低い次数のコードの上界とそれを達成する例について発表を行います。また時間が許せば現在進行中の研究についても報告する予定です。



山下温/情報基礎数理学 IV(10:30~11:00)

“Coarse 構造と無限遠境界”

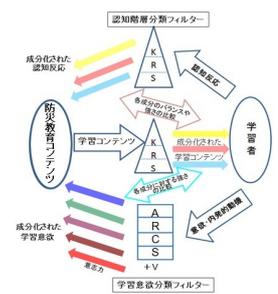
図形をいわば「非常に離れて見る」ことで、その大局的な広がりだけに注目する幾何的立場が群論をはじめ広く応用されており、これを表現する言葉として Coarse 構造があります。Coarse 構造は、無限遠境界と呼ばれるものを通して捉えられますが、この点について、私の研究成果を含めてお話ししたいと思います。



行場絵里奈/人間情報学・学習心理情報学(11:00~11:30)

“人間の基本的認知特性と意欲特性に基づく防災教育教材の評価”

効果的な防災教育を実施するためには、人間の認知特性と意欲要因に配慮する必要があります。従来の研究では、防災教材に含まれるコンテンツに対する各認知特性要因別の理解と、その理解バランスと意欲との関係が明らかになっておりません。本研究では、認知階層と意欲の関連性が学習者の理解度や印象度に及ぼす影響を調査し、既存の防災教育教材を認知特性と意欲要因の観点から評価すると同時に、認知特性と意欲要因の観点から、より効果的な防災教育教材を作るための知見を提供します。



何淑珍/社会構造変動論(11:30~12:00)

“「聞きがたり」手法によるインタビュー調査—農家の生活史と農業観の把握—”

本発表は、当事者の生活史が単なる事実の積み重ねであるだけではなく、当人がどのようにその事実をとらえ、対応しようとしたのかを引き出す「聞きがたり」という手法を用いて、一人の農業者の生活史をとらえようとする試みです。そのことによって、日本の農業、農村、農家の将来を展望する際の諸問題点が農業者の目にどのように映しだされているかを明らかにします。

